

なりすまし

「なりすまし」とは

「なりすまし」とは、ネットワークの匿名性(→p.66)を故意に悪用して、他人のユーザ ID やパスワードを盗用し、その人のふりをしてネットワーク上で活動することをいい、英語では spoofing (スプーフィング) と呼ばれている。

ネットワーク上のコミュニケーションでは相手の顔が見えないため、ネットワークの先にいる人が本当にその人かどうか特定することができない。名前も、本名ではなく ID やハンドルネームが使われたりする。また、仮に本名を名乗っている場合でも、その人が本当にその人なのかどうかを確かめることができない。悪意はないにしても、参加しているコミュニティごとにネットワーク上で複数の人格を使い分け、時として性別まで詐称する者もいる。

ネットワークの利用者は、このような匿名性や「なりすまし」の危険性について常に注意を払う必要があるだろう。

「なりすまし」の危険性

「なりすまし」は、ある人物がネットワーク上で別の人格として振る舞うことであるが、「なりすまし」に気づかない場合は様々な危険と向き合うことになる。

まず、実在する他の人物になりすまされた場合であるが、メールの場合は送信元を簡単に詐称できるため、ネットいじめ(→p.70)で無料のメールアドレスを用い、なりすましメールを大量に送られることがある。

また、経済被害にあう場合もある。例えば、ネットオークション(→p.71)などで実際には所有していない高価な商品を出品して代金を詐取したり、逆に代金を支払わずに商品をだまし取ったりする被害に遭うようなケースである。

さらに、ネットワーク上で知り合った人物と交流を続けるうちにその人と仲良くなり、信用して実際に会ってみると、ネット上で名乗っていた人格とま

ったく異なる人物であったということもある。

実際には、成人の男性が女子高校生を名乗り、会いに来た少女に対してその兄であると詐称して車に連れ込むような事件も発生している。

「なりすまし」を防ぐために

「なりすまし」の被害を防ぐためには、まず、ネットワークの特性に注意して、相手の人が本当にその人なのか常に注意を払う必要がある。特に、子どもたちは経験が少ないので情報モラル(→p.46)の指導などを通して、「なりすまし」の危険から回避するための安全な対処法を学ばなければならない。

ネットで知り合った人物に1人で会いに行くのは大変危険である。どうしても会いに行かなければならない場合は、保護者や信用できる大人を伴うことが必要である。

ネットショッピングやオークション、楽曲やソフトのネットによる購入などの商取引でも相手を確認したり、手数料を払って安全な取引を行ったりすることが求められる。

また、子どもだけではネットショッピングは行わせないことも家庭のルールとして守らせることが大切である。